



JSQC ニュース

No.251

発行 社団法人 日本品質管理学会

東京都杉並区高円寺南1-2-1 (財)日本科学技術連盟東高円寺ビル内

電話:03(5378)1506 FAX:03(5378)1507

ホームページ:www.jsqc.org/

CONTENTS

- 1-トピックス <http://www.jsqc.org> へようこそ!
- 2-私の提言 MTSの普及に学ぶこと
- 2-ルポルタージュ 第296回見学会ルポ(中部)
- 3-第33年度品質管理推進功労賞 / 寄付のお礼 / 3月の入会者紹介
- 4-行事案内 / 18AQS参加の勧め

<http://www.jsqc.org> へようこそ!

日本品質管理学会 Web特別委員会 委員長 兼子 毅

日本品質管理学会では、会員サービスの一環としてWebによる情報提供を進めています。現在全会員に配布されている印刷物は、季刊の「品質」誌と月刊の「ニュース」がありますが、入稿・印刷・郵送という手順を踏む必要があるため、情報提供はどうしても遅れがちになります。そこで、タイムリーな情報提供を目的として、行事案内を中心に月に数回ホームページを更新しています。

では、さっそく日本品質管理学会のホームページを見てみましょう。頻繁に更新されている行事案内を閲覧するには、トップページの「お知らせ」「行事案内」の中にある「行事一覧」のリンクをクリックしてください。本部、中部支部、関西支部が主催する事業所見学会や講演会、シンポジウム、研究発表会などの一覧を見ることができます。どれか行事名をクリックしてみましょう。それぞれの行事の詳細を見ることができます。テーマ、聴きどころ・見どころ、プログラム、開催日時、開催場所、参加費、申込方法などが記載されています。これらは「品質」誌や「ニュース」でもお知らせしますが、行事詳細が決まり次第Webのページを随時更新しています。新しい行事については、メール・ニュースでもお知らせしています。このメール・ニュースは現在約2500名の会員・非会員に配信されています。「品質」誌や「ニュース」などではタイミング

を失するようなお知らせを随時流していますので、メール・アドレスをお持ちの会員は是非アドレスの登録をお願いします。また、このメール・ニュースは非会員の方もお申し込みいただけますので、身近に興味のある方がいらっしゃいましたら是非登録をお勧めください。メール・ニュースは無料で配信いたします。

Webで行事案内をご覧になった方は既にご存知かもしれませんが、研究発表会や講演会、シンポジウムなど、参加定員が多い行事ではホームページから申し込むことができるようになっていきます。是非ご利用ください。

今まで学会の行事に参加したことがない方は、まず、今まで開催された行事がどんな様子だったのかを見てみましょう。トップページに戻って、「記録・報告」の「ルポ・会員による活動報告」をクリックしてください。事業所見学会や講演会などのルポが掲載されています。いくつかクリックして読んでみてください。「行けばよかったなあ」と思うような行事はありませんか? もしそのような感想をもたれたなら、ぜひ一度参加してみてください。よそでは聞けない話を聞け、普通は見せてもらえない現場を見ることができます。他社で同じような仕事をしている会員と出会うこともできます。大学の先生とのコンタクトができるかもしれません。参加費もリーズナブルだと思います。

それでは最後にもう一度トップページに戻ってください。「品質管理相談室」を見てみましょう。「コミュニケーション・メーリングリスト」の「品質管理相談室」をクリックしてください。使用上の注意書きが表示されます。一読されたあと、画面下のリンクをクリックしてください。既に何件かの質疑応答が行われていることがわかります。ちょっと悩んでいるのだけど誰に相談していいか分からない、くだらないことなのかもしれないけれど本を読んでも書かれていない、自分のところではこういうやり方をしているが問題ないのだろうか、など、品質管理に関わることなら何でも結構です。気軽に書き込んでください。きっと経験・知識豊富な方が回答を寄せてくれるはずですよ。もともと学会という組織は、同じような興味をもつ研究者や実務家のコミュニティーであり、情報交流や意見交流、技術開発、啓蒙普及、標準化の推進などを行うところです。ですからこれをお読みの会員の方も、質問だけでなく、回答も積極的にお寄せください。相互交流を図る場所として積極的にご利用ください。なお、ここでの回答は学会の「公式見解」ではありません、念のため。

このように、学会からの様々な情報がWebに掲載されています。是非「お気に入り」に登録し、時々覗いてみてください。新しい情報が掲載されているかもしれません。

私の提言

MTSの普及に学ぶこと

東京工業大学 大学院教授 宮川 雅巳



品質工学信奉者の間で、MTS（マハラノビス・タグチ・システム）が急速に広まっている。機関誌「品質工学」に掲載された事例の数は本流のパラメータ設計を凌ぐ勢いである。MTSの手続きは、1950年代に既に存在した多変数管理図として具現化される多変数外れ値検出と基本的に等価である。このような古典的手法がなぜ今日これほど使われるのであろうか。

理由のひとつは、言うまでもなく提唱者田口氏のカリスマ性とネーミングの良さにある。二番目は宣教師の存在

である。教祖の真意を汲み、見事なまでに教祖の言を伝道する。三番目には、既成の統計ソフトを使わずとも手軽にマハラノビス距離を計算できるようになった環境がある。

しかし、これだけの理由で、冷静沈着なはずのQCエンジニアがMTSに走るのだろうか。私は次の点が本質的だと考えている。実は、MTSには古典的多変数外れ値検出にプラスアルファした部分がある。それは、予め単位空間に属していない個体を用意し、その個体のマハラノビス距離が十分大きいかどうかで、マハラノビス距離を構成する多変数の合理性を評価する作業である。項目選択と呼ばれる変数選択もこれに基づいている。このような作

業は少なくとも管理図にはなかった。もちろん、統計学者はこの作業を外れ値検出における常識的作業だと主張するかもしれない。しかし、それを手順として明示するか否かはユーザーにとっては大違いなのである。品質工学では、良い悪いはさておき、パラメータ設計でもMTSでも手順が事細かに規定され、そのうちのどれかでも省略しようものなら邪道とされる。

ところで、統計的方法、特に多変数解析は、最近でも徐々にではあるが発展し、効用が期待される手法も少なくない。しかし、これらのほとんどは現場でユーザーが使いやすい形に精練されていない。学術的にはたいしたことがないと思われるような、ちょっとしたプラスアルファが、手法の使い勝手を著しく高める。私はこの典型的な例をMTSに見出したのである。SQCの研究者はこの点を強く認識すべきなのだろう。これこそがテクノメトリックスの最も重要な側面と考えている。

第296回 中部支部 事業所見学会 ルポ

豊田紡織株式会社 刈谷工場 「環境調和型オイルフィルタの 開発と生産システムについて」

平成16年1月29日(木)第296回(中部支部第71回)事業所見学会が、自動車産業の中心地愛知県刈谷市の豊田紡織株式会社 刈谷工場にて開催された。『環境調和型オイルフィルタの開発と生産システムについて』のテーマのもと、総勢30名が参加した。

豊田紡織(株)はトヨタグループ唯一の繊維関連メーカーとして、紡績で培った繊維技術をもとに、自動車用フィルタ事業と自動車用内外装事業でトップクラス。今後も自動車用のフィルタ総合メーカーおよび、車1台分の内装品をパッケージ開発・設計・生産する、内装システムサプライヤーとしても世界トップクラスを目指す企業である。

当日は中部支部幹事であり、同社刈谷工場刈谷製造部部長の山内様による同社の概要説明、第1生技部室長の土井様による「環境調和型オイルフィルタ」の開

発経緯のご紹介後、工場見学をさせていただいた。

従来のオイルフィルタ製造ラインと「環境調和型オイルフィルタ」製造ラインの2種類のラインを比較できるよう案内いただいた。従来の、ろ紙を切出し折り曲げて組立製造するフィルタに対し、「環境調和型」は、ろ紙製造における中間工程での加熱・冷却の繰り返しを排除してエネルギー効率を2倍化。中間工程で発生する廃棄物を激減。有害物質をゼロ化する。など、画期的な工程を実現した。多くの技術的な課題をクリアし、(株)デンソーと共に「2002年大河内記念生産賞」を受賞したラインである。安定した大量生産を確立するために実施された様々な工夫を、現場・現物で詳しく説明していただき、参加者の多くがその技術の高さ、工夫の素晴らしさに感心した。

質疑応答では、設備のメンテナンス方法やトラブルの内容、モデルチェンジ時の設計変更方法、製品検査方法などについて活発に討議された。中でも、フィルタケースの印刷にじみなどの微妙な検査には、まだ人の目に頼っていることが多いと言われたことが印象的であった。

水谷 政昭(新日本製鐵(株))

第33年度 品質管理推進功労賞： 学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

(社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第4回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いいたします。

但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

- 1) 本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いいたします。
- 2) 推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

A. 本賞の授賞資格(品質管理推進功労賞内規):

以下のいずれかの条件を満たす会員とする

- 1) 企業・各種団体(以下、組織という)に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
- 2) 組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
- 3) 組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
- 4) 本会の役員2名以上の推薦があった者。

B. 本年度選考方針:

- a. 本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、約6名程度とする。
- b. 本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避けるものとする。
- c. 本来の所属企業で取締役になった人は避ける(理事、執行役員は対象とする)。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。

d. 女性に対する配慮を積極的に行う。

e. 33年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

C. 推薦必要書類:

推薦書(様式219-1)、業績リスト(様式219-2)、上司等の推薦書(様式219-3、ここで上司等とは、元・上司、現・関連部門長を含むものとする)様式については、

URL: http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou 参照

D. 推薦締切: 2004年6月30日

E. メール送付先: kourou@jsqc.org

F. 選考: (社)日本品質管理学会品質管理推進功労賞選考委員会が行う

G. 発表: 9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知

H. 表彰: 2004年10月30日(土)

本学会年次大会 授賞式

I. 連絡先: (社)日本品質管理学会事務局

J. 参考: URL http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou2003.html

ご寄付ありがとうございました

* * *

近藤良夫先生、狩野紀昭先生より、ASQ賞受賞を記念し、国際活動に対して302,143円の寄付をいただきました。

ありがとうございました。

また、当学会では寄付の受け入れができることになりました。

寄付申込書は

<http://www.jsqc.org/ja/oshirase/jimukyokukara.html>

にございます。

2004年3月の 入会者紹介

(正会員24名) 奥井 武史(株和陽インターナショナル・コンサルティング) 松浦 剛・金原 敏勝(豊田合成(株)) 伊藤 千春(浦安伊藤コンサルティング) 中原 登世子(有)経営品質研究所) 加登 豊(神戸大学) 鈴木 秀一(鈴木会計事務所) 藤井 徹(オムロン(株)) 澤田 清信・大島 丈幸(株ミカミ) 小竹 和彦(日産ディーゼル工業(株)) 杉本 日出子(豊田工機(株)) 山田 康夫(国際医療福祉大学) 大森 雄治(日本電気通信システム(株)) 坂田 理彦(三菱電機

(株) 横山 淳(横山テクノサービス) 吉田 富美男(長岡技術科学大学) 安藤 廣美(飯塚病院) 石井 隆(株富士総合研究所) 河合 一夫(株ニルソフトウェア) 宮地 厚志(株デンソー) 守屋 浩(昭和キョウデン(株)) 村松 孟(水島工業(株)) 山上 裕司(有イノベーション)

(準会員2名) 前田 和雄(明治大学) 山田 寛幸(早稲田大学)

正会員: 3062名

準会員: 133名

賛助会員: 178社204口

公共会員: 22口

行事案内

ISO9001:2000審査員のためのTQM
基礎講座(本部)

- 毎月1回5回開催(最終回)・会員優先 -

参加費: 会員 3,000円 準会員 2,000円
非会員 6,000円

定員: 先着100名

時間: 18:30~20:30

会場: 日本科学技術連盟
東高円寺ビル地下1階講堂

プログラム: 第5回 4月9日(金)

新JISと標準化をめぐる最近の動向
担当: 矢野友三郎氏

申込方法: ホームページから申し込みできます。

http://www.jsqc.org/ja/oshirase/gyouji

申込締切: 4月2日(金)

第298回(中部支部第72回)事業所見学会

日時: 2004年4月13日(火)13:30~16:00

見学先: 中部国際空港

テーマ: 中部国際空港における環境対策と
各施設のコンセプト及び品質管理
について(仮)

定員: 40名(会員優先)

申込方法: 会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・
連絡先住所を明記の上、中部支部
事務局までお申し込みください。
折返し、参加要領をお送りします。

申込締切: 3月30日(火)到着分まで

(但し定員になり次第締め切ります)

第89回(中部支部第42回)講演会

日時: 2004年4月16日(金)13:20~17:00

会場: D-Square B1階スクエアプラザ

テーマ: お客様に支持され続ける企業を目
指して講演1: パイオニア発、世界発への挑
戦(仮)

須藤民彦氏(パイオニア(株))

講演2: 世界最強のグローバルカンパニ
ー実現に向けて(仮)

雪竹泰三氏(カルソニックハリソン(株))

定員: 120名(会員優先)

申込方法: 会員No.・氏名・勤務先・所属・TEL・
連絡先住所を明記の上、中部支部
事務局までお申し込みください。
折返し、参加要領をお送りします。

申込締切: 4月9日(金)到着分

参加費: 会員 4,000円 非会員 5,000円
準会員 2,000円
一般学生 2,500円

第1回実践活動研鑽会(中部)

日時: 2004年5月7日(金)15:00~17:00

会場: 日本規格協会名古屋支部 研修室

定員: 20名

申し込み: 中部支部事務局

申込締切: 4月16日(金)到着分まで

第41回クオリティパブ(本部)

テーマ: ホテル戦争をいかに生き抜くか
(仮題)

ゲスト: 中村 裕氏(ロイヤルパークホテル)

日時: 2004年5月18日(火)18:00~20:30

会場: 日本科学技術連盟
東高円寺ビル5階研修室

定員: 30名

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXに
てお申し込みください。

第297回事業所見学会(本部)

テーマ: JR東日本の安全のレベルアップ
に向けた取り組み - いつでも達成
何処でも安全な鉄道を目指して -

見学先: JR東日本研究開発センター

埼玉県さいたま市北区

日時: 2004年5月26日(水)14:00~16:30

定員: 30名

申込方法: 本部事務局宛E-mailまたはFAXに
てお申し込みください。

第74回研究発表会(本部)発表募集

日時: 2004年5月29日(土)

会場: 日本科学技術連盟・東高円寺ビル

(1)申込期限

発表申込締切: 3月31日(水)

予稿原稿締切: 5月6日(木)必着

参加申込締切: 5月21日(金)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

同封の参加申込書にご記入の上、本部事
務局までお申し込みください。ホームペ
ージからもお申し込みできます。

第99回シンポジウム(本部)予告

テーマ: ISOマネジメントシステムの最新
情報と企業の取組み

日時: 2004年7月15日(木)

会場: 早稲田大学理工学部
57号館201号室

開催案内は5月に送付いたします。

第75回研究発表会(中部)発表募集

日時: 2004年9月3日(金)

10:15~17:15

会場: 名古屋工業大学

(1)申込期限

発表申込締切: 6月18日(金)

予稿原稿締切: 8月3日(火)必着

参加申込締切: 8月27日(金)

(2)研究発表・事例発表の申込方法

同封の発表申込要領をご覧ください。

(3)参加申込

7月送付予定の参加申込書にご記入の上、
中部事務局までお申し込みください。

行事申込先

本部: TEL 03-5378-1506

FAX 03-5378-1507

E-mail: apply@jsqc.org

中部支部: TEL 052-221-8318

FAX 052-203-4806

E-mail: nagoya51@jsa.or.jp

関西支部: TEL 06-6341-4627

FAX 06-6341-4615

E-mail: kansai@jsqc.org

参加のお勧め

The Second ANQ Congress and 18th Asia Quality Symposium
- Quality for the Prosperity of Asia -

今、インドが注目されている!!

2004年8月16日~19日インド(ニューデリー)にて、第2回アジア品質ネット
ワーク(Asian Network for Quality: ANQ) Congress 及び第18回アジア
品質シンポジウム(18th AQS)が開催されます。今、中国と共に大変注目さ
れているインドでの開催です。どうぞ奮ってご参加ください。

参加費: 150 US\$ (6/15まで 6/16以降 200 US\$)

申込期限: 6月11日(金)までにRegistration formを送付

申込先: JSQC事務局 office@jsqc.org

詳細URL: http://www.jsqc.org/ja/oshirase/event/0210_18aqs-1.html